

# 林業とくしま



森は海の恋人  
森が海を育てている

魚育てる森林をつくろう

県内若手漁師の会と山の仲間が一緒になって  
ケヤキ、モミジ、カエデ等広葉樹約千本を植樹しました  
名付けて「海人と山人の森林づくり」

【木沢村：千樹の森】



「今植えた  
この木に地球の未来を託す」

(平成14年徳島県緑化標語優秀作品)

脇町中学校1年

八木 ゆいさんの作品

No. 261  
2002.7

# やまびこ

## 間伐事業の取り組みについて

山城町森林組合

組合長 西川利男



退していません。今間伐を急がなければならぬ森林をそのまま放つておくと、荒廃が進み大変なことになりかねないという危機感を持っています。

そこで、採算性を高めて森林所有者の方に少しでも多く還元できるようにするために、県や町のご指導を仰ぎ、相談しながら様々な取り組みをしています。

まず、搬出経費を節約するため現地をよく見て作業に当たることが大事と考えております。

幸い町内では、間伐作業道の開設もかなり進んでいたのでその周辺や、少し離れたところへは簡易作業路を開設し、林内作業車等の小型機械を使って搬出しています。また場所によつてはタワーヤードや在来の架線での搬出も行っています。

さらに搬出した原木は、できる

我が山城町の総面積は一三〇〇ha余で、うち八五%が山林であり、さらにそのうちの七〇%が人工造林です。そのほとんどがスギ林で、林齢も六~八齡級が大半を占めているので、間伐が急がれます。

一方木材価格の低迷は極めて厳しく低迷しており、主伐材はもちろん間伐材ではなおさら収益は望めないので、森林の経営意欲が減

製材工場と集成材工場、または第三セクターのパネル工場へ運んでいます。

そこで作られるのは、ログハウジング、組立ハウス、東屋、休憩所、ログテラス、各種看板、丸棒、ウッド手すり、ベンチ、木柵、杭など、建築材から土木資材まで、大小様々なものがあり、公共事業にも対応出来るように取り組んでいます。

さらにこれらの販売面を強化するため、今年からI-TAーンの方を専門の営業マンとして採用しました。

なお、今後間伐事業を進めいくためには、都会の方々とも交流し、森林づくりにご理解をいただき必要もあると思つています。そのため、森の中にふれあいや林业体験ができる場所、林业従事者を育成する場所を作り、現地へ足を運んでもらえる環境整備に努力していくことを思つています。

これらのことによつて、地域全体が明るくなり、森林所有者の方々に接したときには、互いに満面の笑顔で接することができるようになたいものです。

## もくじ (林業とくしま 261号)

やまびこ(間伐事業の取組について).....	2	林研とみんなの情報交流コーナー.....	8
鉄人コーナー(シイタケ日本一を目指して)		技術情報(徳島すぎの新たな性能).....	10
(篠原式スイングヤーダー).....	3	阿波だぬき(タイムスリップ).....	12
林政の窓('主要新規事業の概要').....	4	東西南北.....	13
特集「森林整備活動支援交付金制度の創設」.....	6	広告.....	15
おしらせ.....	7		

# 鉄人コーナー

## シイタケ日本一を目指して

神山町

### 神原俊之 氏

神山町と佐那河内村との町村境近くに神山椎茸生産販売協同組合があります。今回はこの組合の理事長の神原俊之さんをご紹介します。

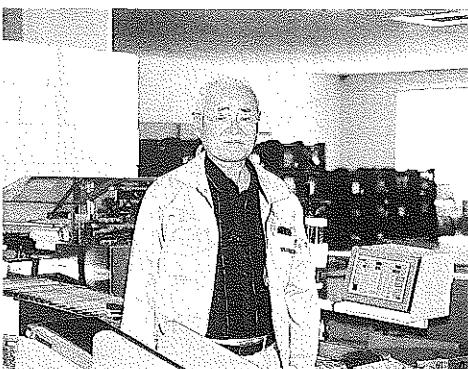
神原さんは昭和五八年頃、土木業から一転して椎茸の生産に取り組みはじめました。原木栽培からはじめて、菌床栽培の研究をはじめたのは昭和六二年頃で、当時、徳島県にはまだ三名しか菌床栽培をしている人はいなかつたそうです。同じ年の八月に組合を設立し、その約一年後に菌床栽培を本格的に稼働しはじめ、現在に至っています。現在は、菌床椎茸生産量第1位を誇る徳島県の約一・七割を占め、京阪神市場ではトップに位置し、目標であつた大坂制覇を達成するほどに成長しています。組合をここまで成長させるには、神原さんの様々な工夫と努力があつたようです。椎茸のパック詰めをはじめたり、それに貼るシールのデザインの開発、ジャンボ(300g)

袋詰め出荷、機械の改良、生産技術に関する研究等話を聞いていると次々にでできます。昔も今も変わらず、向上心をもち続け、あらゆるところに目を向けて情報収集し、研究する姿勢には感動してしまいます。

昨年は和歌山県へも進出しており、大忙しの毎日を送っているようです。

原さんは、次は東京制覇を目指に頑張っています。菌床栽培をはじめたときからの言葉「『の菌床をもつて椎茸の日本一になる』のも夢ではなさうです。

徳島農林事務所 日下 章代



## 篠原式スイングヤードー

阿南市

### 篠原 茂 氏

今日は、「機械など、まだ使えるものを更に改良を加え開発するのが好き」と言われる、阿南市新野町片山の篠原茂さん七二歳をご紹介します。

機械好きの篠原さんは経歴がユニークである時はバーナー(燃焼技術)の開発販売、そして漁業用の竹林販売、また壁土用の赤土を練る機械の開発販売等々…。

現在では、森林組合の理事・森の案内人をされながら、自宅近くの山林10ha(約七割がヒノキ林)に幅2mの作業路二、〇〇〇mを開発し、自分一人で搬出間伐を行う、山好きで笑顔がとても印象的な方です。

「人の心と道は出来るだけ真っ直ぐ」との信念から、直線的な線形に加え比較的急勾配な道と高密路網を実践する一方、昨年には個人のバックホー(0・25m<sup>3</sup>)を改良し、自称「篠原式スイングヤードー」を開発、作業路を利用して自慢の機械を使い間伐材の搬出行っています。

この機械は、バックホー本体にドラ

ム取り付け、アームからバケットに沿って滑車等を装着、ワイヤーを通し作業路まで間伐材を引っ張るというもので、アームを延ばしたりちじめたりする」と材を手繰り寄せる仕組み。この機械のポイントは、バケット先端に取り付けた引き寄せるためのキトークリップとワイヤー途中にある縫りが生じないためのヨリモドキだそうです。引張る際に株など掛かる時には、アームを上昇させバックホーを軽く旋回しながら行うと、スマースに寄ると言います。手繩つたワイヤーは、手動のドラムで巻き取る寸法、障害物がないと一度に五mも寄せることが出来るそうです。

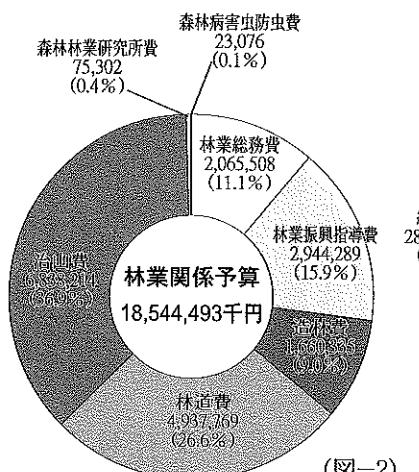
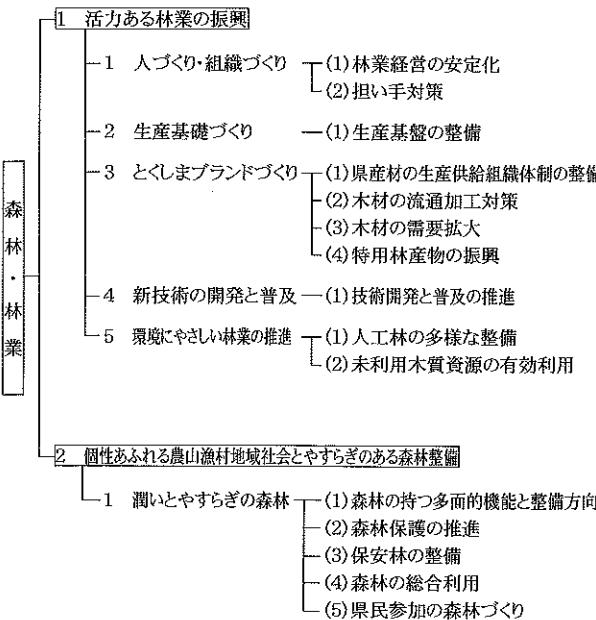
また、引き寄せた間伐材は、バックホーの排土板に取り付けたトラクターの荷車によって搬出します。これも篠原さんのアイデアで、旧式のトラクターでないと取り付けがうまくいかないそうですが、この機械を使って自分の山の管理の他、隣接する山林二〇haのお世話をされているとのこと。

このように、山と機械、そして改良が好きな篠原さんのユニークな発想は、これまで経験された様々な仕事から得られたものと強く感じました。「山には道と手入れが必要」と熱っぽく語って頂いた篠原さんの研究熱心な人柄に感銘を受けたしだいです。

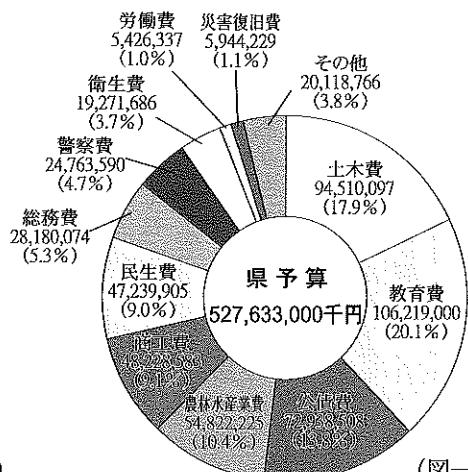
平成十四年度林業関係予算

昨今、森林に対する県民の要請  
が多様化・高度化する反面、これま  
で森林を支えてきた林業や山村が  
活力を失いつつあり、森林の持つ

多様な機能の低下が心配されています。国においては、木材生産を主体とした「林業基本法」が三十七年ぶりに見直され、森林の持つ多面



(图-2)



(図-1)

的機能の持続的な発揮と林業の健全な発展を図ることを理念とした「森林林業基本法」が昨年七月に制定されました。県では、こうした状況を踏まえ、先人が守り育ててきた緑豊かな本県の森林を、時代の新たな要請にこたえ、再構築し、次代へ引き継いでいくため、二十世紀の本県の森林づくりの理念となる「とくしま森林づくり構想」を策定しました。

また、この構想の実現に向けた今後十年間の具体的な施策については、時を同じく策定しました「農林水産業・農山漁村振興行動計画」に基づき、各種施策を実施してまいります。

平成十四年度の県一般会計当初予算については、厳しい財政状況であることから、五二七、六六三百万円(図一)で、対前年度比は九四・八%となっています。

このうち林業関係予算について、県予算金全体の三・

# 林政の窓

五%にあたる一八、五四四百万円(図二)で、対前年度比八二・三%と大変厳しいものになっています。

以下、平成十四年度の主要新規事業について説明します。

## 一、森林整備地域活動支援事業

一五〇、〇〇〇千円

森林所有者等が、森林施業計画に従い間伐等の森林施業を実施するにあたり、森林施業に不可欠な現況調査や歩道の整備、施業実施区域の明確化作業等の地域活動を、市町村長との協定に基づき実施する場合、その活動に対して支援します。

### ◆事業実施主体 市町村

### ◆支援内容

主に三十五年生以下の人工林面積に対して、一ha当たり一万円を交付

### ◆実施期間 平成十四～十八年度

### 二、水土保全林緊急間伐実施事業

三二、〇〇〇千円

市町村森林整備計画で、「水土保全林」に位置づけられている森林の保育間伐を促進するため、国補助事業に県費を継ぎ足して助成します。

### ◆事業実施主体

市町村、森林組合等  
◆補助率 査定事業費の五%以内

◆実施期間 平成十四年～十六年度

### 三、身近な森の間伐モデル事業

四、四〇〇〇千円

集落周辺や国・県道等の沿線にある森林で、間伐の重要性等を普及啓発するため、間伐団地計画の作成、森林所有者への普及啓発や間伐モデル林の設置等に対しても支援します。

### ◆事業実施主体

市町村、森林組合等

### ◆補助率

事業費の五%以内  
計画策定等のソフト事業は二分の一以内、モデル林設置は査定

### ◆実施期間 平成十四～十八年度

### 四、林業経営構造対策事業

二〇五、九四四千円

森林・林業基本法の制定等により、従来の林業構造改善事業が組み替えた事業で、森林施業の推進、生産性の向上を図るために施設整備等に対しても支援します。

県、市町村、森林組合、林業者等の組織する団体等  
◆補助率 二分の一以内

◆実施期間 平成十四～十八年度

### 五、県産材住宅資金貸付事業

七三三、九〇〇千円

県産材の需要拡大と県産材住宅の良さを普及するため、県産材を使用した木造住宅を建築または購入しようとする者に、低利の融資をします。

### ◆貸付利率

二・五五%(当初十年間)

◆貸付限度額 九〇〇万円

◆貸付期間 指定金融機関が設定

### ◆実施期間 平成十四～十八年度

### 六、木材産業構造改革事業

九四、四三〇千円

競争力のある木材産地の形成と地域材の安定供給を図るため、木材の加工・流通の合理化や品質の向上等に必要な施設整備を支援します。

### ◆事業実施主体

県、市町村、木材関連業者等の組織する団体等

◆補助率 二分の一以内

◆実施期間 平成十四～十八年度  
七、県民参加による森づくり整備促進事業

六、〇〇〇千円  
◆補助率 二分の一以内

### 八、しいたけ生産体制整備緊急対策事業

一、二〇〇千円

◆事業実施主体 市町村  
◆補助率 十分の四以内

◆実施期間 平成十四～十六年度

### 九、全国育樹祭実施事業

二五、五千九百円

◆事業実施主体 林業者等の組織する団体等

◆補助率 二分の一以内

### 十、全国育樹祭実施事業

一、二〇〇千円

◆実施期間 敗勢十四～十六年度

### 十一、全国育樹祭実施事業

一、二〇〇千円

◆事業実施主体 林業者等の組織する団体等

◆補助率 二分の一以内

### 十二、全国育樹祭実施事業

一、二〇〇千円

◆実施期間 敗勢十四～十六年度

### 十三、全国育樹祭実施事業

一、二〇〇千円

◆事業実施主体 林業者等の組織する団体等

◆補助率 二分の一以内

### 十四、全国育樹祭実施事業

一、二〇〇千円

◆事業実施主体 林業者等の組織する団体等

◆補助率 二分の一以内

### 十五、全国育樹祭実施事業

一、二〇〇千円

◆事業実施主体 林業振興課森林政策担当

# 森林整備活動支援交付金制度の創設

## ○制度の概要

平成十三年七月木材生産を主体とした林業基本法が三十九年ぶりに改正され、森林の多面的機能の持続的な発揮に向けた森林整備の推進と、林業の健全な発展を図ることを基本理念とした「森林・林業基本法」が施行されました。

この法の中で、多面的機能の発揮には、計画的、一体的な施業の確保を図るため、森林所有者による森林の適正な整備が必要であることをから、施業の実施に不可欠な森林の現況調査、その他地域における活動を確保するための支援策として、平成十四年度から「森林整備地域活動支援事業」が創設されま

した。これは、平成十二年度から実施されている農業の「中山間地域等直接支払制度」に続く林業版直接支払制度と呼ばれているもので、国・県・市町村の連携のもと平成十

## ○事業の内容

森林施業計画の作成主体である森林所有者等(交付対象者)が、市町村長との協定に基づき、施業の実施に不可欠な森林の現況調査等を実施した場合、施業計画に含まれる積算基礎面積に応じて、市町村長から交付金が交付されます。

**一交付対象者**  
森林施業計画の作成主体(森林所有者、森林組合、素材生産事業体等)で市町村長と協定を締結した者。

**二対象森林**  
市町村長から森林施業計画を認定を受けた森林(対象外の森林は、大企業有林、緑資源公團有林、県及び市町村が森林施業計画の作成者になつてている森林等)

**三支援対象となる活動(対象行為)**  
市町村長と森林施業計画の作成

主体との間で締結する協定に基づき当該森林施業計画の対象森林内で協定期間を通じて行われる次の行為。

- (1) 森林の現況調査
- (2) 施業実施区域の明確化作業
- (3) 歩道の整備等

## 四交付金の単価

積算基礎森林 1ha当たり 一円。

## 五交付額

交付額は、対象森林のうち積算基礎面積に交付単価を乗じて算定。

## 六積算基礎森林

積算基礎森林は以下のとおり。  
ア 林齢が協定締結時点において三十五年生以下である人工林  
イ 林齢が協定締結時点において三十六年生以上四十五年生以下である人工林であつて、次の要件を全て満たす森林

- a 市町村森林整備計画で定める公益的機能別施業森林区域内に存する森林であること
- b 対象となる森林施業計画に施業を計画している森林であること
- c 当該施業が三十五年生以下の人工林と一体的な施業が行われること
- ウ 林齢が協定締結時点において六十一年生以下である育成天然林

七森林施業計画について  
実施協定の締結の基となる森林施業計画制度について、平成十四年四月一日から変更されました。一団地の認定要件が三十ha以上になり、森林所有規模が三十ha未満の方は近接する森林所有者と共同で森林施業計画を作成することとなりました。また、従来数種類なつております。また、従来数種類で森林施業計画を作成することとなりました。

さらに、市町村森林整備計画による重視すべき機能に応じた「水土保全林」、「森林と人との共生林」及び「資源の循環利用林」の三森林森林区分ごとの認定要件が追加されました。

〇今後の予定  
交付金制度について、本年四月下旬に市町村説明会を開催します。現在、森林所有者等への周知活動が市町村を中心に行われています。

森林所有者の皆様方には周知会等に積極的に参加して頂きますとともに、不明な点につきましては市町村、農林事務所林務課等にお

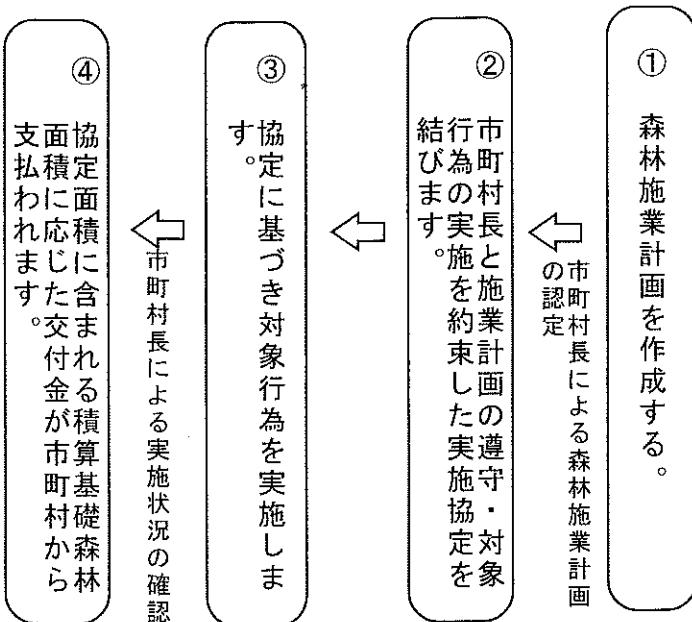
# 特集

問い合わせ下さい。

多くの皆様が本制度を活用され  
一層の森林整備が推進されますよ  
うお願いしまして制度の紹介とさ  
せていただきます。

林業振興課森林政策担当

## 交付金の交付までの簡単なフロー



## おしらせ

### ●第28回全国育樹際の作品募集

平成16年秋に本県で開催する第28回全国育樹際の大会テーマ・シンボルマーク・ポスター原画を募集しています。

#### 最優秀賞

テーマ5万円・シンボルマーク10万円・ポスター原画2万円。

(高校生以下は金額相当分の図書券)

他にも入賞多数あります。

#### 応募資格

「テーマ、シンボルマークの部」

県内の小学生以上の方。

「ポスター原画の部」

県内の中・高校生の方です。

#### 応募締切

テーマは9月10日(火)。

シンボルマーク・ポスター原画は9月17日(火)。  
すべて当日消印有効です。

#### 問合先

県林業振興課(TEL 088-162-12482)  
またはお近くの県農林事務所林務課まで

## 林研とみんなの情報交流コーナー

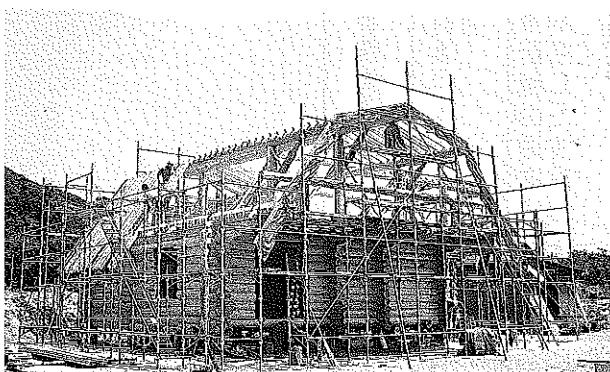


### ログハウス建設相次ぐ

轟自然公園観光促進協議会(海南町)

海南町轟自然公園観光促進協議会は、轟ノ滝を中心とした轟自然公園の良さを広く知つてもらい、この地域の振興を図ろうと活動しています。

公園の良さを広く知つてもらい、この活動の一環として、平成十三年度は、みんなでログハウスを造ろうということになり、平成十二年に丹生谷林業研究会のメンバーからログハウス建築の指導を受けました。早速、十三年夏からログハウス建築に着手し、このほど完成しました。大きさは室内がおよそ七畳くらい、軒を大きく取つてあるため見た感じはそれよりかなり大きなものとなつています。初心者がいきなりこのよう



立派なログハウスを建てているのをみて、指導した丹生谷林研のメンバーも驚いていました。これも会員の多くが林業等の経験を有し、チエンソーの取り扱いに熟練しているためです。

会では、これを活動拠点として、また公園を訪れる人に山の良さをアピールする施設として活用していくそうです。

建設場所は、美馬町城(ログスクールを開催した場所)で、五月六日に上棟し、現在(五月二十日)屋根組みの途中ですが、一階部分の床面積約二十二坪で、直径二〇cm×三〇cmのヒノキ丸太を十二段(高さ約三m)積み上げて壮大感を出し、二階のベランダは、ログビルダーの第一人者である平林定男氏による彫刻を施すなど県内では例をみない芸術的なログハウスとなりそうです(完成予定期年内)。

会長の大泉久繁氏(四四才)は、七月末まで不在ですが、外からの見学は可能とのことです。

### 林研グループ「匠の会」(半田町)

平成十四年二月にログスクリュを開催するなど活発な活動を開いている半田町林業研究グループ「匠の会」は、約一〇〇年生のヒノキを約六〇m<sup>3</sup>使用したログハウスを建設中です。

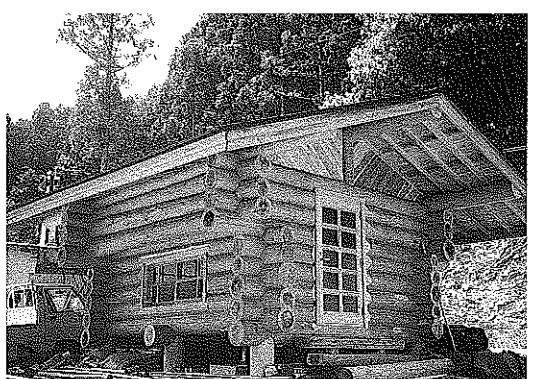
建設場所は、美馬町城(ログスクールを開催した場所)で、五月六日に上棟し、現在(五月二十日)屋根組みの途中ですが、一階部分の床面積約二十二坪で、直径二〇cm×三〇cmのヒノキ丸太を十二段(高さ約三m)積み上げて壮大感を出し、二階のベランダは、ログビルダーの第一人者である平林定男氏による彫刻を施すなど県内では例をみない芸術的なログハウスとなりそうです(完成予定期年内)。

会長の大泉久繁氏(四四才)は、七月末まで不在ですが、外からの見学は可能とのことです。

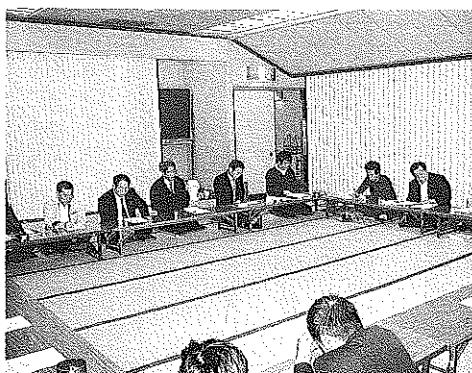
林業同友研究会発足(美郷村)

平成十四年三月三十一日(日)

にヘルスランド美郷において、美郷村の林業研究グループ「美郷林業同友クラブ」と「集約林業研究会」の合併総会が開催されました。どちらのグループも輝かしい歴史を持ち、活発な活動が展開されていましたが、厳しい林業情勢の



## 林研とみんなの情報交流コーナー



中、地域林業振興のため、より充実した活動を目指し、発展的に解散、合併することを、昨年十一月に実施した合同林業先進地視察(滋賀県、岐阜県)時に決定し、今回、合併の運びとなりました。新しいグループの名称は、それぞれのグループの歴史と伝統を引き継ぎ、「林業同友研究会」と名付け、会長に森口孝男氏、副会長に河野利英氏、和泉隆啓氏、監事に尾崎君男氏、藤川禎弘氏という役員を中心とし、美郷村内外の会員三十三名でスタートすることになりました。これからも皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願ひいたします。

山村の人口の半分以上は女性！  
県が推進する間伐促進も、山村女性の理解と協力がなければ困難です。徳島指導区では、地域の林研グループの協力を得て、初の試みとして平成十四年三月三日に「上勝女性間伐教室」を開催しました。当日好天に恵まれた会場の上勝町森林組合共販所に集まつたのは総勢三十五名。午前中に間伐の目的や補助制度などの講義を受けた後、昼からは、エンジンによる模擬伐採体験、間伐実施林の見学などを行いました。

**性間伐教室**  
を開催

指導区では、今回の催しを重点課題として取り組み、事前に森林組合の総代さん等上勝町の全数百世帯を対象に電話連絡を行い、参加を呼びかけましたが、参加は、期待したより少ないものとなりました。が、今まで全く森林組合等との関わりを持たなかつた人も多く、新たつながりを持つことができました。参加者からは、もつと現場

主体の研修をして欲しいなどの声も聞かれ、より、シーズン前に再度研修会を企画し間伐の普及に努めたいと思います。

徳島農林事務所 早田 健治



新しい林研です。会員は、林業家を中心とした人々で構成されています。これまで、林業の活性化や森林資源の有効利用を目的とした研修会を開催してきました。今後も、森林や山村生活の体験の場として、又、シンボルとして「水車」を作ろうということになり、いきいき林研事業を活用し秋から製作を始めました。設計した水車は、3mを超えるもので、軸の伐出しや仮組、運搬など困難を極めましたが、会員の努力の結果、出来上がつてみれば県下最大級の本格的な水車とあります。場所は、池田と井川の町境諷訪谷川沿いです。是非一度ご覧ください。

池田農林事務所 和泉 玲



ビオトープ池田は、「いろんな生き物が関係をもつて暮らしていく空間づくり」を目的に池田のマチ(中心街)を拠点に活動を始めた



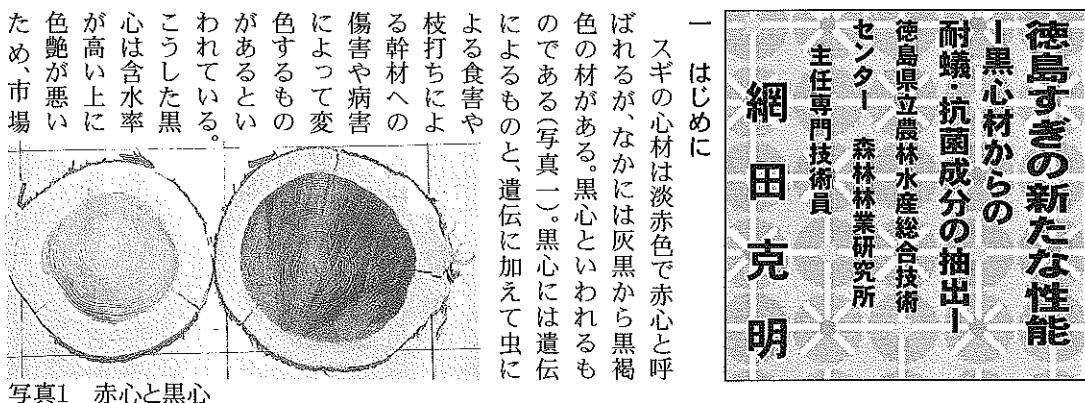


写真1 赤心と黒心

## 徳島すぎの新たな性能 —黒心材からの 耐蟻・抗菌成分の抽出—

徳島県立農林水産総合技術  
センター 森林林業研究所

主任専門技術員

網田克明

### 一はじめに

スギの心材は淡赤色で赤心と呼ばれるが、なかには灰黒から黒褐色の材がある。黒心といわれるものである(写真1)。黒心には遺伝によるものと、遺伝に加えて虫による食害や枝打ちによる幹材への傷害や病害によって変色するものがあるといわれている。

こうした黒心は含水率が高い上にため、市場

は何ら赤心と変わることはなく、むしろ赤心よりも耐久性があると昔から言わされてきた。シロアリ被害の多い沖縄に本県から黒心の土台角が出荷されていたとも聞く。

ところが、こうした黒心材の性能についてこれまで実証したデタラはなかった。

二 産学官の研究体制

森林林業研究所では、以前、県内林業家の求めで徳島すぎの赤心と黒心の置かれ方を実証した。

ところが、こうした黒心材の性能についてこれまで実証したデタラはなかった。

二 産学官の研究体制

森林林業研究所では、以前、県内林業家の求めで徳島すぎの赤心と黒心の置かれ方を実証した。

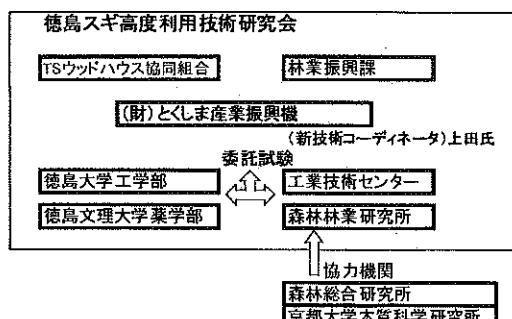


図1 RSP事業の研究体制

研究会では、徳島すぎの置かれている技術課題を整理し、過去に行つた黒心と赤心の耐久性試験の問題点を洗い出した。そして平成十三年度RSP可能性試験(県下七課題)に採択され、心材からの成分抽出と、耐蟻性試験、抗菌試験等を実施することになった。

### 三 殺蟻成分の単離

今回、試験に使った材料は、八年から九年生の葉枯らし材(土台角製品)である。まず徳島文理大学薬学部(生薬学研究室)で心材部分から成分を抽出し、森林林業研究所で成分ごとの殺蟻試験を実施した。

注目したいのは、この殺蟻成分は天然乾燥を施した材料から単離されたものであるということである。現在行われている木材の

黒心について耐久性の違いを調べたことがある。その試験結果からは差は認められなかつたが、黒心が強いという経験則からすると、何ともすつきりしなかつた。

このため平成十二年十一月、(財)とくしま産業振興機構が行っている科学技術振興事業団の研究開発事業(通称RSP)に採択して頂き、産学官からなる「徳島スギ高度利用技術研究会」(図1)が発足した。

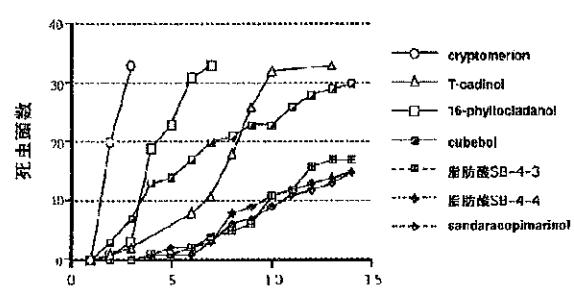


図2 殺蟻試験の結果(徳島文理大 梅山、在原、森林林業研究所 橋本ら RSP可能性試験2002)

# 技術情報

化合物	MIC* (ppm)	
	<i>E. coli</i>	<i>S. aureus</i>
feruginol	>250	0.98

図3 抗菌試験(徳島文理大 梅山、在原、徳島大学 高麗ら RSP可能性試験2002)

注) *E.coli*は大腸菌、*S.aureus*は黄色ブドウ球菌

うな成分は水の蒸発とともに失われる可能性がある。この試験成績は、新たな殺蟲成分を探り当てたということに加え、天然乾燥材の隠された性能を示唆するものである。

四 優れた抗菌、殺菌性

徳島文理大学薬学部と徳島大学工学部(生物工学)では抗菌試験を実施した。

微生物の増殖を抑制することを抗菌という。赤心と黒心から抽出された成分ごとの抗菌活性を、黄色ブドウ球菌等を用いた最小発育阻止濃度(MIC)測定法により調べた。その結果、黒心から抽出された成分には、驚くべきこ

とに抗生物質のみの値を示す物質があることがわかつた(図3)。さらに、スギ材表面の殺菌効果をみるため、トイレや台所のような汚染されやすい環境を想定した実験を行つた。大腸菌を材料表面に転写し洗い流した場合、黒心では三〇分後に、赤心では六〇分後に死滅した(図4)。

この試験から、常に掃除をしているような場所では、スギの心材、とくに黒心材は天然の抗菌材としての優れた性能を持つことがわかつた。

五 実大材での性能試験

さくらの黒心材は天然の耐久性の差、成分含有量の差がどうして七日間ごとの死虫頭数を測定した結果、赤心と黒心に差は認められなかつた。

また、京都大学木質科学研究所のイエシロアリ飼育槽に土台角材を設置した(写真二)。三ヶ月間の試験では黒心も赤心も高い耐久性を示し、僅かではあるが黒心が赤心より被害度は少なかつた。

さらに赤心材、黒心材の試験体を腐朽菌(オオウズラタケ)の菌叢に置き、八週間後の腐朽状況を観察したところ、違いは認められなかつた。

## 六 さいごに

この研究成果が、素材生産の一割、場所によつては二割とも言われる黒心の有利販売につながることを期待している。黒心材すべてにこうした性能があると断言できないが、林齡で活性成分に差があるのか興味のあるところである。また、有効成分が揮発する温度条件等によつては、コスト優先の乾燥技術を見直すべきかけとなる。

森林林業研究所では、イエシロアリを用いた耐蟲性試験を行つた。赤心材、黒心材、辺材からとした小試験体を飼育容器内に設置

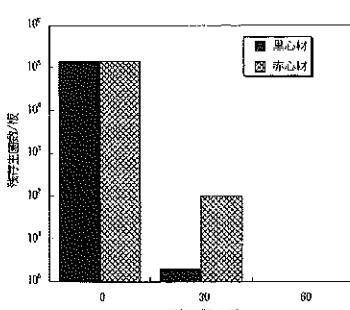


図4 スギ材表面殺菌の試験  
(徳島大学 高麗 RSP可能性試験2002)



写真2 シロアリ飼育槽の試験  
(森林研究所 橋本 RSP可能性試験2002)

徳島スギ高度利用技術研究会では、こうした技術課題についてさらに研究し、それを生かした商品開発を進めることにしている。

このように黒心と赤心とで差がなかつたのは、もともと耐蟲性、耐久性が高いものの同士を比較したために差が現れにくかつた。また、京都大学木質科学研究所のイエシロアリ飼育槽に土台角材を設置した(写真二)。三ヶ月間の試験では黒心も赤心も高い耐久性を示し、僅かではあるが黒心に耐用年数が長期にわたる場合、黒心と赤心の微妙な耐蟲性や耐久性の差、成分含有量の差がどう影響するか、今後の検討課題である。

# 阿波だぬき



## タイムスリップ。

阿南農林事務所

林務課長

伊勢俊司

今、国産原木スギ・ヒノキの価格が急激にさがっている。

昨年の夏頃からジリジリと下げ、今年に入りて一段と値を下げている。

スギが主体の管内の木材センターの取り扱いの平均単価をみると、一月一万六千円、二月一万四千円、三月一万五千円、四月一万三千円、五月一万二千円、とさみだれ的値崩れを起こしており、「生産費も出ない」と山元さんは、悲鳴をあげている。

業界新聞によると、スギ丸太は四二年前（一九六〇年）、ヒノキは三五年前の相場水準になつた。と論評している。一九六〇年当時といえば、日本社会全体が高度経済成長を突き進んでいた。

サラリーマンの月給一万三千八百円と言う流行歌があつたのを覚えている人も多いだろう。いまなら二十万円程度だらうか。

また、他の諸物価と比べるとその異常な安さが理解できるであろう。

このタイムスリップしたような長い年月を逆戻りした現象をどのように考えたらよいのだろうか。

国産材の不振を論じる時、過去たえず指摘されたのが安い外材攻勢によって市場が浸食されたというものであつたが、外材よりも安くなつた今では、これでは、説明しきれない。川上の林業・素材生産・原本流通から川下の製材・加工・製品流通さらに消費構造にいたるまで、長い年月をかけて複

雑に変化してきたのであらう。

国際商品としての木材、木材製品は、これからも、一段と地球規模で国際自由貿易経済の荒波を受けながら、どのように変化していくのだろうか。これから林業を考えるとき、過去の出来事の変化を教訓に、国際社会の変化を念頭に入れて考えることが大切であると思つてゐる所頃である。



締まる思いがしました。

この徳島中央森林組合が発足すると、森林組合員数と出資金で県下の森林組合となります。また、

東西南北



徳島  
徳島中央森林組合  
合併予備契約調印  
式締結について

平成十四年十月一日に、徳島市・

勝浦町・佐那河内村・神山町の五森

林組合が合併して、徳島中央森林

組合が発足することとなりました。

これに先立ち五月九日に徳島市の

ホテル千秋閣において合併予備契

約調印式が行われました。調印式

では、合併する森林組合や関係市

町村関係者が見守る中で五森林組

合の組合長さん及び関係市町村長

さん並びに県森林組合連合会会長

さんの十一名が調印を行いました。

この調印式を一つの契機として、

今後、十月一日の合併に向けて、定

款や諸規程及び事業計画など具体的な作業を決めていくことになります。調印式を見ながら身の引き

により、チャペルふうの多目的集会所「ラムールNASA」を建設しました。

場所は、海と海岸が美しい室戸

阿南海岸国定公園の一部、漁り火の森公園にあります。

建物は、海のスギをふんだんに使用しており、柱は一五メートル

セントメートル、長さ五メートル

のスギ材を使っており、梁、桁など構造材はすべて海部地域のスギ林

です。室内の高さは、最大八メートルあり、協会形式の結婚式ができるようになっています。

ラムールとは、フランス語で「愛」という意味であり、この建物が多くの愛を育ててほしいもので

す。

ラムールは、これから取り組みに

ついて、専務の徳永吉弘さんといっしょ

なスタートを切りました。その社長を任せられたのは、丹生谷林業研究会の会長である中原敏博さん。株式

会社アイエフの「これから」の取扱い組みに

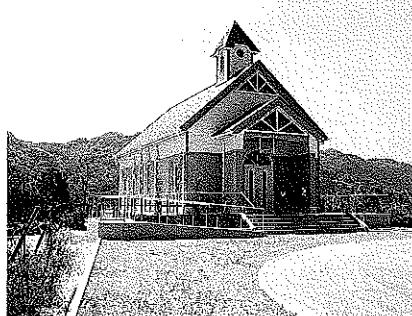
ついて、専務の徳永吉弘さんといっしょ

にお話しをうかがいました。

日和佐  
施設地域材利用モデル  
設施 NASA 完成



海部町では、地域の木材の良さを広く知つてもらおうと、国の補助事業、先駆的木造施設実証事業



「あいあいらんど」の管理運営を含めた第三セクター「株式会社アイエフ」発進！  
相生町の交流施設「あいあいらん」は、平成十四年度から第三セクター「株式会社アイエフ」として新たにスタートを切りました。その社長を任せられたのは、丹生谷林業研究会の会長である中原敏博さん。株式会社アイエフの「これから」の取扱い組みについて、専務の徳永吉弘さんといっしょに話しをうかがいました。

「株式会社アイエフ」は、町が二分の一を出資、あいあいらんとの管理運営を中心として、農業部門、林業部門の各種業務を請け負う会社として出発しました。現在の社員は中原さん、徳永さんのか東谷浩さん、アルバイトの吉田静子さんの四名。中原さんは林業のプロ、徳永さんは長くJAの機械修理に携わってきた農業のプロ、東谷さんは二十六歳の若手、吉田さんはあいあいらんの専属といふ立場で、それぞれが助け合いながら、あいあいらんの経営、ファームサービス、林道等の維持管理、間伐事業等

により、チャペルふうの多目的集会所「ラムールNASA」を建設しました。

場所は、海と海岸が美しい室戸阿南海岸国定公園の一部、漁り火の森公園にあります。

建物は、海のスギをふんだんに使用しており、柱は一五メートルセントメートル、長さ五メートルのスギ材を使っており、梁、桁など構造材はすべて海部地域のスギ林です。室内の高さは、最大八メートルあり、協会形式の結婚式ができるようになっています。

ラムールとは、フランス語で「愛」という意味であり、この建物が多くの愛を育ててほしいものです。

ラムールは、これから取り組みについて、専務の徳永吉弘さんといっしょに話しをうかがいました。

「株式会社アイエフ」は、町が二分の一を出資、あいあいらんとの管理運営を中心として、農業部門、林業部門の各種業務を請け負う会社として出発しました。現在の社員は中原さん、徳永さんのか東谷浩さん、アルバイトの吉田静子さんの四名。中原さんは林業のプロ、徳永さんは長くJAの機械修理に携わってきた農業のプロ、東谷さんは二十六歳の若手、吉田さんはあいあいらんの専属といふ立場で、それぞれが助け合いながら、あいあいらんの経営、ファームサービス、林道等の維持管理、間伐事業等

を行つとしています。

今のところはファームサービスが中心で、トラクターや田植機に乗つて一〇〇件以上の耕耘、田植えをやつてしまふのです。これから夏場まで、あいあいらんどのお客さんのお世話、敷地内の草刈りや剪定、稲刈り作業、秋から冬は林道の管理やダム湖周辺の修景作業、間伐作業と忙しい毎日が続きます。「とりあえず、今できることをやつしていくしかないわけだ。」という中原さんの言葉どおり、不安と期待が入り交じつたスタートです。

私達もできるだけアイデアを出し合い、応援していきたいと思っています。阿南農林事務所林業推進係

井坂 利章



## 川島 三郷にやつて来た!

五月十三日に県の広報番組「もつとく」と「もつと知りたい徳島」の取材が美郷村でありました。この中で、森林のもたらす恵み、機能、そして、それに導くのに不可欠な「間伐」についてわかりやすくレポートしました。

取材は、徳島の社長 和泉

隆啓氏の協力で行われ、村内で適正な間伐ができる森林と間伐が遅れた森林が隣接している所で、林内を比較し、土壤の発達の違いから緑のダムのはたらきを説明しました。また、間伐材の有効利用について、The山師の工房で作業状況が撮影されました。

最初の結びで和泉氏が「海は、生命の母と言いますが、海の親は山である。」と言われたのが誠に印象的でした。

五月十八日の土曜日、美馬町にある「NTTドコモ阿波竜王の森」で、NTTドコモ四国徳島支店(以下「支店」という。)の社員三八名が参加して、間伐などの活動を行いました。

「NTTドコモ阿波竜王の森」とは、美馬町と支店との間で森林利用協定を結び、町有林二haの森づくりを行つてゐるところです。この日は一・三班が間伐作業、四班が椎茸の植菌作業を行いました。

川島農林事務所

井関 廣幸

## 脇町 「今年の阿波竜王 の森」

前日は大雨で、天候を一番心配していましたが、参加者の熱意にお日様も顔を覗かせ、充実した一日となりました。

なお、次回の活動は秋期に予定しているとのことです。

脇町農林事務所 細川 光広



た。

参加者は、チェンソー初体験の者が大半でしたが、積極的にチエンソーに触れて伐倒を行いました。ヒノキ林なので、掛り木の処理に手間どいながらも一人一本の伐倒、枝払い、玉切り、集積などおりの作業をする事ができました。